# 仁 尾 雨 乞 い 竜　（三豊市仁尾町）

▽八月一日、「仁尾竜まつり」が開催されました

（仁尾雨乞い竜のいわれ）

三豊市仁尾町は、古くから干ばつに悩まされていました。困り果てた村人は、雨乞い行者の和蔵に相談しました。和蔵は、「藁で大きな竜を作り、それに伊予の黒蔵渕から汲んできた水をかけて祈ればよい」と教えました。それを聞いた村人たちは、麦藁を持ち寄り、全長二十七メートルもの大きな竜を作りました。一方黒蔵渕は、古くから竜が棲むといわれている水の豊富な渕で、愛媛県四国中央市の山中にあります。水を汲んだ帰り道は、途中で止まるとそこに雨が降ってしまうというので、村の若者たち数人のリレーで引き継ぎながら、一斗樽を担いで走って帰りました。

和蔵は、その水を藁の竜にお供えしました。そして、村人たちは大きな竜を担ぎ「竜に水浴ぶせ、竜に水浴ぶせ」と叫びながら村中を駆け回り、家の前で貴重な水を手桶一杯入れて待ち構え、竜が通ると水を浴びせました。そして、最後には、竜を父母浜から海に流しました。

その間、和蔵は雨の宮神社の前で祈り続けました。すると不思議なことに、その夜妙見山に大きな黒い雲がもくもくと現れ、雷光とともに大粒の雨が降ったということです。

寛政十一年から百四十年もの間、大干ばつの度に藁で作った竜による雨乞い神事が行われていました。昭和十四年には、いったん途絶えましたが、昭和六十三年に復活し、現在では伝統民族行事として受け継がれています。また、仁尾の雨乞い竜は、三豊市財田町にある香川用水記念公園内の水の資料館エントランスホールに展示されている「雨乞い竜」のモチーフにもなっています。

（西讃土地改良事務所）

昭和 14 年　干ばつ時の仁尾雨乞い竜

黒蔵渕（愛媛県四国中央市）